

## 第1章 地域の現況と展望

本県は周囲を山で囲まれた内陸県であり、そのほぼ中央部を流れる紀の川（吉野川）によって南北に二分され、北はなだらかな丘陵と奈良盆地からなり、南は大山岳地帯となっている。

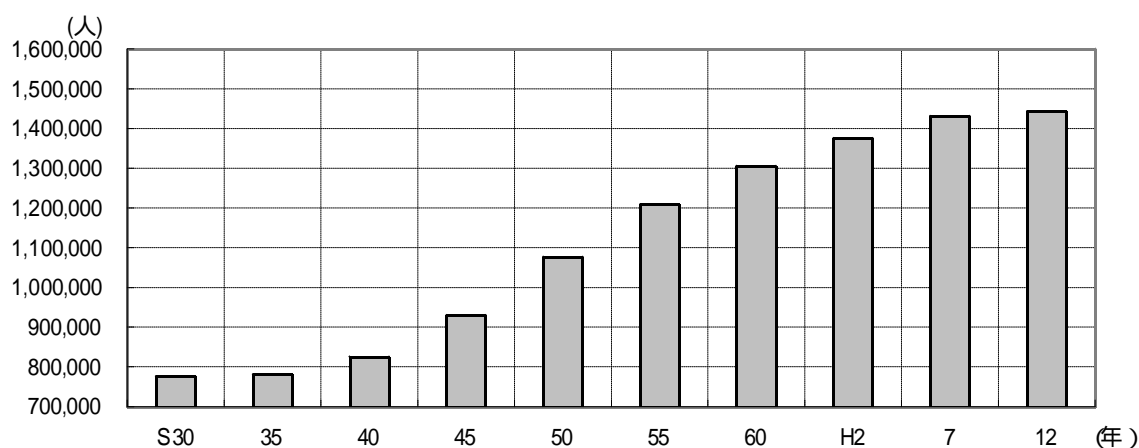
県土の1割程度の奈良盆地とその周辺地域に人口や諸機能の集中が進む一方、山間地域では人口の減少や高齢化の進行等により、地域の活力維持が課題となっている。

平成12年10月1日現在の本県の人口は1,442,862人であり、その分布状況は市部が72.2%（1,041,274人）、町村部が27.8%（401,588人）となっている。

また、高齢人口比率（65歳以上）は約16%であり、既に高齢社会を迎えている。県西北部では都市化の進展に伴う人口の社会的増加により高齢人口比率は比較的低いのが、県東部、南部では高齢化が著しく進むなど、地域格差が大きいことが大きな特徴である。一方、出生数の減少と合計特殊出生率の低下により、年少人口（15歳未満）の割合は約15%となっている。

人口の見通しとしては、奈良盆地を中心として人口増加傾向が続くものの、全国的な人口増加の鈍化傾向を反映するなど伸率は低下することが見込まれている。また、少子化と死亡率の低下という全国的な傾向を反映して、高齢化が進み、高齢人口は実数、総人口に対する割合ともに増加すると見込まれている。

### 本県の人口



国勢調査による（但し、平成12年は国勢調査速報人口）。

なお、本文中の高齢人口比率及び年少人口の割合は、住民基本台帳及び外国人登録に基づく奈良県年齢別人口（平成12年10月1日現在）を基礎としている。